

毛利コレクション特集展

暮らし

下

げ

手て
物もの

の
道具

杉山
寿栄男が描いた

毛利コレクション

会期

2025.11.15 [土] ▶ 2026.3.8 [日]

会場

石巻市博物館 常設展示室 毛利コレクション展示室

時間

9:00-17:00 (最終入館 16:30 月曜日休館 祝日の場合は翌日 年末年始)

料金

一般 300 円 / 高校生 200 円 / 小中学生 100 円 ※常設展観覧料。団体割引あり



石巻市博物館 HP



ISHINOMAKI
CITY
MUSEUM

石巻市博物館

〒986-0032 宮城県石巻市開成1-8(マルホンまきあーヒテラス内)石巻市博物館

問合せ: 石巻市博物館学芸係

電話 0225-98-4831



昭和2年(1927)沼津貝塚発掘
(杉山寿栄男、毛利総七郎、遠藤源七)

—毛利コレクションと暮らしの道具—

多種多様な資料によって構成され、その数は10万点を超えるといわれる「毛利コレクション」。コレクションを形成した**毛利総七郎**(1888-1975)は、切手やマッチラベルをはじめ、灯火具、根付、煙草入、矢立など、日常生活で用いられる道具を熱心に収集しており、この「庶民生活資料」がコレクションの性格を特徴づけています。

石巻市博物館では、明治末～昭和戦前期にかけて毛利総七郎や友人の**遠藤源七**(1890-1963)に送られた手紙を読み解き、考古資料群やアイヌ資料群の形成過程を明らかにするなかで、図案家かつ資料収集家であった**杉山寿栄男**(1885-1946)の重要性に注目してきました。杉山は、商業デザインを生業とする傍ら、原始工芸やアイヌ工芸に関する著作を多数執筆した人物です。毛利コレクションには杉山から毛利・遠藤に送られた手紙のほか、杉山が描いたコレクションの絵など、杉山寿栄男に関する資料が残されている点も特筆されます。

今回の特集展では、杉山寿栄男が描いた毛利コレクションに焦点を当て、杉山が毛利に宛てた手紙を読み解きながら、彼らが暮らしの道具に向けたまなざしや関心を紹介します。

—“下手物 げても”を収集する—

大正15年(1926)、柳宗悦らが進めた民藝運動では、俗に「下手物 げても」や「雑器 ぞうき」と呼ばれていた暮らしの道具を、「民衆が日々用いる工藝品」と捉え、「民藝 みんげい」と呼称することを提唱しました。「下」とは「並」の意、「手」は「質」や「類」の意です。精巧につくられた高価なモノが「上手物 じょうても」と呼ばれるのに対し、下手物は民衆が普段使いする安価なモノで、日常生活とは切り離せない存在です。

毛利や杉山は、この民藝運動とは異なり、独自の視点から下手物を収集しました。彼らの手紙を読み解くことで、その関心の所在を窺います。



「松竹」字入角形酒器 酒樽



切込焼 徳利



切込焼 銚子



玉葉入(左から、竹に雀紋、二引両紋入、上り散らし藤紋入)



南部小絵馬



燵巾着付燵金



南境貝塚 注口土器



提灯形酒器



朱塗高台皿



初公開!杉山寿栄男が描いた「東北の玩具」

令和5年度に遠藤源七の御子孫から寄贈を受けた、考古資料や考古学関係の雑誌・抜刷、書簡等を中心とする「遠藤源七旧蔵資料」。この中には、杉山が東北地方の郷土玩具を描いた屏風があります。今回の特集展では、描かれた郷土玩具とともに本資料をお披露目いたします。

博物館講座「“下手物”蒐集とその関心—毛利総七郎宛杉山寿栄男書簡を読む—

日時:2026年1月17日(土) 13:30~15:00

会場:マルホンまきあーとテラス 大研修室(定員 80人)

講師:泉田邦彦(石巻市博物館 学芸員)

備考:参加無料、予約不要

背景:館蔵毛利コレクションのうち、杉山寿栄男「日本の民具1945」:「注口土器集」